

## 人間魚雷「回天」輸送艦撃沈 事実、元隊員らが解明

2009年6月21日

【神奈川】人間魚雷・回天隊員ら352人を乗せた旧日本海軍の第18号輸送艦が1945年3月18日に粟国島沖合北北西5キロで米潜水艦に撃沈され全滅していた史実が、元回天隊員らの調査で明らかになっていたことが分かった。国の資料で那覇到着前に「行方不明」とされ、その後「喪失認定」とされた同艦の史実が当事者らの掘り起こしで明らかになった。

遺族の中には国の戸籍原本の訂正につなげた人もいる。回天搭乗員だった兄猪熊房蔵さん＝当時（18歳）＝の弟得郎さん（80）＝横須賀市＝は、県内にあったとされる回天基地の所在を探するなど戦後64年を経た今も兄の痕跡を追い続ける。

第18号輸送艦の軌跡を調査したのは、元回天隊員らでつくる全国回天会会長を務めた故小灘利春さんと同会事務局長を務めた河崎春美さん＝東京都江東区＝ら。米海軍の記録「第二次大戦潜水艦作戦史」などの資料から突き止めた。

河崎さんらは戦後、輸送艦乗員らの戦死の日や場所などが戸籍原本などでまちまちなことに疑問を抱き、調査に着手した。「第18号輸送艦の搭乗者は、国の記録では死亡日が違っていたり、沖縄本島の陸上戦に参加して戦死したりと、でたらめだった」と話す。

米資料によると、第18号輸送艦は45年3月13日に、回天白龍隊員らに乗せ山口県にあった光基地を出港。那覇到着前に米潜水艦・スプリンガーから魚雷8発、1時間の攻撃を受け、大槻勝艦長ら乗員225人と、第1回天隊の白龍隊127人が全滅したとされている。搭乗員名簿は作成されているが、回天隊員127人は、14人の氏名などが判明している以外は不明のまま。

猪熊得郎さんの兄房蔵さんは、26年3月生まれ。44年8月に回天特攻隊に志願、白龍隊搭乗員として、沖縄に赴く途次で死去した。だが、戦後の厚生省（当時）の記録（公報）や戸籍原本では「荘河丸」で鹿児島を出発し東シナで死亡したと記録されていた。

「東シナ海はあるが、東シナなんて場所はない」。得郎さんは、小灘さんや河崎さんらの史実の調査も踏まえ、国に戸籍原本の記録訂正を要求し、2000年3月に実現した。

「回天の配備作戦は、司令官だけが知る極秘事項だったことが、後の記録が誤った原因の一つなのでしょう。本島中部に造られた回天の基地の所在ですら、今もって分からない」。兄の足跡をたどり何度も沖縄を訪れている得郎さんは今年も房蔵さんが追加刻銘された平和の礎を訪れ、兄を悼む。(斎藤学)



兄の軌跡を調べ、沖縄を訪れる猪熊得郎さん = 横須賀市